

小学部「おはなしであそぼう※」学習指導案

◆本事例は、道徳の時間に関連する指導として示しています。

日 時：平成〇年〇月〇日(〇)第〇校時

対 象：小学部〇年～〇年児童〇名(男子〇名、女子〇名)

場 所：小学部〇組教室

指導者：〇〇〇〇, 〇〇〇〇, 〇〇〇〇

1. 題材名 「あいさつは魔法のことば」 ※「おはなしであそぼう」は学校独自の活動名

2. 題材設定の理由

(1) 児童について

本学級は、小学部1年生2名、2年生2名、3年生2名のダウン症や知的障害のある児童6名からなる学級である。児童の実態を見てみると、自発的に挨拶できる子、特定の相手にしか挨拶できない子、挨拶の言葉を知っているが、自発的には挨拶できない子など様々である。その中で共通していえることは、幼いころより挨拶をルールやスキルとして教えられてきたからなのか、楽しそうに挨拶する児童の姿があまり見られない。挨拶は強制的なものではなく、挨拶をすると自分と相手の心が結びつき、お互いに楽しい気持ちになるということに気づくことが大切なのではないだろうか。

(2) 本活動の題材について

本題材では、CM曲「あいさつの魔法」を参考に、児童の日常生活における挨拶場面を取り上げた紙芝居や歌を作成し、教材として用いることとした。この教材は、「おはよう」から「おやすみ」まで、八種類の挨拶場面を設定している。また、各場面においては、教員や友だちとともに行う役割演技の中で、布団などの具体物を用いたり、「スティッチ」のキャラクターが登場したりする。小学部の子どもたち、とりわけ低年齢段階の子どもにとって、具体物を用いる学習を行うことによって、挨拶をすると自分だけではなく、相手も楽しいということを体験的に感じてもらえるのではないかと考えた。

(3) 本時の指導とその手立てについて

本時では、紙芝居を読み聞かせる際に子どもたちが好きな動物のペープサートを使用した。また、挨拶の歌や役割演技の中で、楽しい雰囲気づくりのために音楽や「スティッチ」のキャラクターを活用した。さらに役割演技の中では、児童が視線・声の大きさ・表情に注目し、教員に対して挨拶をすることができた場合には、教員が笑顔になり、「まあるくなろう」の歌に合わせて一緒にダンスすることとした。本題材を通して、挨拶を楽しみ活動として児童がとらえなおし、挨拶をすると自分も相手も心が動くということを感じとることを期待している。

なお、それぞれの児童の実態と個別指導の手立てについて以下に示す。

各児童の実態と手立て(略)

◎本指導の道徳教育上の位置付けと主な手立て

① 児童に育まれることが期待される道徳性

- ・他の人とのかわりにおける生活習慣の育成
- ・礼儀や相手への思いやりの心情と態度

② 心を育てるための手立て

- ・具体的な指導を通して、気持ちよく感じる体験を数多くさせながら繰り返し指導する。

3. 本題材のねらい

- あいさつをすると自分も相手も楽しくなるということに気づくことができる。
- 役割演技の中で挨拶をすることができる。

4. 学習指導計画(全3時間)

- 第1時 朝のあいさつをしよう……………紙芝居、あいさつの歌、役割演技(おはよう)
 第2時 出かけるあいさつをしよう……紙芝居、あいさつの歌、役割演技(ってきます)
 第3時 お礼のあいさつをしよう……………あいさつの歌、役割演技(ありがとう)

5. 本時(第2時)の展開

(1)本時のねらい

- 挨拶の仕方によって、相手の表情が変化し、気持ちが変わることが分かる。
- 役割演技を通して、「いってらっしゃい」「ってきます」のやりとりができる。

(2)本時の展開

時間	学習活動	指導内容	指導上の留意点☆心を育む手立て
10:00	①はじまりのあいさつをする。 1日のあいさつを楽しもう	・授業の始まりを意識することができる。	・MT(主担当教師)は、日直とともに姿勢を正すよう促す。
10:05	②おはなしを聞く。 	・紙芝居に注目し、いろいろな挨拶を知ることができる。	・MT(主担当教師)は、日直とともに姿勢を正すよう促す。 ☆節度の中にも、挨拶の良さを感じられるように楽しい雰囲気をつくり出す。 ・MTが紙芝居と動物のペープサートを操作する。 
10:10	③「あいさつの歌」を聞いて、お手本を見る。	・音楽を通して、いろいろな挨拶を知ることができる。	・MTがキーボードを演奏し、歌う。 ・音楽に合わせてST(副担当教師) 1とF児が具体物を操作する。ST2は、指さしてE児が注目できるようにする。
10:20	④役割演技を行う。 	・「いってらっしゃい」「ってきます」のやりとりをすることができる。 ・挨拶の仕方によって、相手の表情が変化することを知らせる。	・児童はランドセルを背負い、スティッチ役(ST2)とともに模型の家から登場するよう設定する。 ・A児とC児は、相手を見て挨拶できるようにする。 ☆スティッチ役の表情は笑顔や悲しい顔に変化させる。笑顔の場合は「まあるくならう」のダンス、悲しい顔の場合は短いフレーズの音楽を流す。
10:40	⑤終わりの挨拶をする。	・授業の終わりを意識することができる。	・MTは、日直とともに姿勢を正すよう促す。

(3)本時の評価 一略一

(川井 優子)

あいさつは魔法のことば

(特別支援学校)

(1) ねらい

あいさつを通し、他者との関わりにおける生活習慣を形成するとともに、礼儀や相手への思いやりの心情と態度を養う。

(2) 資料の特質

挨拶嫌いのポンくんは様々な場面での挨拶を通し、挨拶をすると自分も相手も気持ち良くなることに気づき、挨拶が大好きになる。資料は児童が話の内容をイメージしやすいように紙芝居やペープサートを用いて提示する。また音楽を用い、楽しい雰囲気の中、役割演技を行う中で自分や相手の気持ちの変化に気付かせ、ねらいに迫りたい。

(3) 展開例

- 1 「あいさつの歌」を歌う。
 - ・自然と挨拶が口から出るように、楽しい雰囲気で歌う。
- 2 資料「あいさつは魔法のことば」の紙芝居を見る。
 - ・挨拶の良さが感じられるように主人公の気持ちだけではなく、相手の表情や気持ちにも注目するよう促す。
- 3 「あいさつの歌」に合わせて役割演技を行う。
 - ・布団やランドセルなどの具体物を用いる。また、相手の顔を見て上手に挨拶ができた場合には相手役の教員が笑顔になり、2人で曲に合わせて楽しくダンスをする。
- 4 日常の挨拶の様子をビデオで見て振り返る。
 - ・日常生活場面における児童の上手な挨拶、下手な挨拶の映像を見比べ、相手の反応に注目させる中で挨拶の良さについてまとめる。

(4) 指導上の留意点及び工夫

具体的な指導を通して、挨拶をすると自分も相手も気持ち良く感じるという体験を数多くさせながら繰り返し指導する。授業中だけでなく、日常生活場面においても継続して指導を行う。